

イントロ文

1. 過去数年間に渡って、我々はこの反応の有用性を示してきた。
2. このコミュニケーションでは、このクラスの化合物の、新しい概念に基づいた手法を述べる。
3. コンビナトリアル化学は生理活性を持つペプチドの迅速な合成において、日に日に重要なツールとなってきた。
4. マンニヒ反応は、窒素を含む化合物の構築のための化学変換において、もっとも広く用いられている反応の一つである。
5. HIVに打ち勝つための新しい治療薬の開発は、薬学の研究においてずっと活発な分野であり続けている。
6. この化合物の全合成に向けたプログラムの一部として、我々はA環の合成にラジカルを用いたアプローチを用いた。
7. 歴史的には、オレフィンメタセシスは、メカニズムの観点およびポリマー合成の関連において、研究されてきた。
8. しかし、最近になって、直鎖ジエンの環化オレフィンメタセシスはヘテロ環の合成において非常に有効な方法として注目を集めている。
9. これは、第一に過去10年間に渡る構造のはっきりした遷移金属触媒の開発によるものである。
10. 超分子化学の主たる目標は、あたらしい構造体の構築にある。
11. 過去10年間に、規則性を持つポーラスな固体を合成する能力については、著しい進歩が見られた。
12. このことは、結果として異常な物性を持つ素材につながった。
13. アルカロイドの存在に関して、最初に記録がある報告は1870年までさかのぼる。
14. 1の新規な骨格は有機化学者のコミュニティによって、見逃されることはなかった。
15. そのうちに、この化合物は、全合成の刺激的な目的物を求めている多くのグループの注目を集め始めた。
16. 我々の比較的最近の、この問題に関する関与は、この化合物から始まっている。
17. 最近、Aの開発において、著しい発展がみられる。
18. これらの触媒は、重合にきわめて貴重で、有効であることが示された。